

平成29年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
協議会	名瀬地区	宮古崎	0	60%	波当たりが強く、ハナヤサイサンゴ属が優先。食痕や白化は見られず、健全なサンゴ群体が保たれている。
		宮古崎東	0	20%	礁斜面下部のサンゴは壊滅状態だが、礁縁部に直径30~40cmの群体が散見できる。食痕や白化は見られず、健全なサンゴ群体が保たれている。
		デン浜	0	60%	白化率20%。礁斜面下部のサンゴは壊滅状態。浜中央の水路付近に卓状ミドリイシ類が残る。
		知名瀬大浜	0	50%	白化率20%。礁斜面下部のサンゴは壊滅状態であったが、新規加入のミドリイシ属が多く、小型群体が散見できる。
		大浜	0	20%	白化率50%。礁縁には、ミドリイシ属の小型群体が生存している。
		摺子崎	0	25%	白化率10%。礁斜面下部のサンゴはほぼ全滅。礁縁にハナヤサイサンゴ属が優先している。
		赤崎	0	10%	白化率10%。新規加入が少なく回復が遅れていたが、直径10~20%のミドリイシが散見できるようになった。
		名瀬湾立神	0	25%	白化率20%。ミドリイシ属群体が多い。ハナヤサイサンゴ類やミドリイシ類の白化群体が散見できた。
		山羊島	0	30%	ハマサンゴ属が優先している。透視度は10m程度でシルトが堆積している。白化群体なし。
		キョンナ	0	40%	白化率30%。直径20~40cmの卓状および指状ミドリイシ群体が散見できる。
		有良	0	15%	ミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴがまばらにみられる。
		芦花部	0	10%	白化率20%。直径10cm程度のミドリイシ属の小型群体やハナヤサイサンゴが少数見られる程度。
		摺古崎礁池	0	5%未満	白化率80%。塊状のハナヤサイサンゴの礁群体や塊状のハマサンゴが点在している。
		摺古崎礁原	0	20%	白化率50%。卓状のミドリイシ属が優先している。直径50~70cmに成長した卓状ミドリイシも見られた。
		大浜礁池	0	80%	被度は80%だが、白化率90%、うち死亡率は10%。11月には全体の8割が死滅した。
	大浜礁原	0	30%	白化率50%。卓状のミドリイシ属が優先している。	
	崎原東	0	80%	卓状のクシダミドリイシが優先。白化や食痕はほとんど見られない。	
	崎原南	0	30%	サンゴ食巻貝による食痕がみられ、回復傾向がみられる。樹枝状のミドリイシ属と塊状のハマサンゴが優先している。	
	仲干瀬崎(小湊南)	0	75%	礁縁にはハナヤサイサンゴ群集が一面に広がり、礁斜面上部にはミドリイシ属の小型群体が散見できる。	
	住用地区	高浜東	0	70%	礁縁上部には卓状のミドリイシ属の大型群体、直径2mのクシダミドリイシの大型群体が見られる。
		高浜	0	50%	白化率50%。礁縁部に直径40~60cmの指状及び卓状ミドリイシ群体が広がる。
		鳩ノ崎	0	10%	白化率5%未満。ハマサンゴ、キメイシ類の小型群生が点在している。新規加入のサンゴは少ない。
		トビラ	0	5%未満	海底にはシルトが堆積堆積しており、透視度は3m程度である。
		スタルトビラ	0	20%	礁縁にはコビミドリイシやクシダミドリイシ等の卓状のミドリイシの群体が見られる。
	笠利地区	和瀬	0	20%	白化率50%。ハナヤサイサンゴ類や樹枝状ミドリイシ群体が白化した。
		赤木名	0	20%	白化率50%。ハマサンゴが優先し、全体の9割以上を占めている。
		前肥田	0	20%	白化率50%。コビエダハマサンゴ群落は昨年より死滅。被度は60%から20%に減少。
		赤木名立神	0	30%	白化率50%。ハナヤサイサンゴ群体は殆どが白化。ミドリイシ類も色が薄い軽度の白化群体が多い。
		蒲生崎入口	0	15%	白化率50%。白化による死滅率30%。オウミキノコやハラウネタケ等、ウミサカ科のソフトコーラル類が優占。
		蒲生崎	0	30%	白化率40%。オヤコビミドリイシやコビミドリイシ、ハナヤサイサンゴが多い。
佐仁		0	70%	直径50~60cmに成長した指状ミドリイシ属群体や被覆状のニオウミドリイシが多い。礁斜面では樹枝状のアオサンゴ小群落が点在している。白化群体やオヒトデ食痕なし。	
用海岸		0	65%	卓状および枝状のミドリイシ属の小型群体が多くみられる。クシダミドリイシ、ウスエダミドリイシ、アオサンゴ小群落が点在。種多様性も高い。白化群体やオヒトデ食痕はなし。	
あやまる岬		0	40%	卓状ミドリイシや直径50cmほどのクシダミドリイシ、コビミドリイシが多い。太枝状のヤスミドリイシもみられる。白化群体やオヒトデ食痕はなし。	
節田		0	60%	クシダミドリイシ、コビミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落が広がる。直径1.5mほどの大型群体もみられる。新規加入のミドリイシ類も多い。	
明神崎	0	60%	ハナヤサイサンゴ科の群落が広がる。スケミドリイシ、コビミドリイシなどの小型群体も散見できる。直径1mほどの卓状ミドリイシ類もみられる。白化群体、オヒトデ食痕も無し。		
用安	0	20%	指状ミドリイシ類の小型群体が多い。直径1mほどのクシダミドリイシもみられる。新規加入のサンゴはやや少ない。白化群体やオヒトデ食痕はなし。		
神の子	0	70%	白化率80%。トゲエダコモンサンゴや葉状のチヂミコモンサンゴ群落の80%が色が薄くなる軽度の白化。白化による死滅は確認できなかった。		
	今里沖	0	5%未満	ハナヤサイサンゴやミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる程度で、顕著なサンゴの回復はみられない。新規加入のサンゴが少ない。	

平成29年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
協議会	大和村	今里小浜	0	5%	白化率20%。10cm程度の小型群体がみられるが数は少ない。新規加入数は少ない。
		名音沖	0	60%	白化率5%未満。ミドリイシ属の小型群体が散見できる。卓状のナヨウミドリイシが優占し、ユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等のコリボース状の群体も多い。
		名音隧道	0	20%	白化率5%未満。死滅サンゴ骨格上に直径10～15cm程度のミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。新規加入は少ない。
		ヒエン浜中央	0	10%	白化率20%。局地的に、ミドリイシ属の直径1m程度の大型群体がみられるが、新規加入は少ない。白化群体はなし。
		ヒエン浜戸円側	0	20%	白化率50%。局地的にミドリイシ属の大型群体がみられる。加入数は少ない。白化群体はみられなかった。
		ヒエン浜礁地	0	5%未満	白化率20%塊状ハマサンゴが点在している。新規加入のサンゴが「少ない状態が続いている。
		大山崎西浜	0	10%	白化率20%。指状ミドリイシ属やハナヤサイサンゴの小型群体がみられる。白化やオニヒトデ食痕はなし。新規加入は少ない。
		トルス	0	5%未満	白化率50%。指状ミドリイシ属の小型群体が1平方メートルあたり1～2群体程度みられる。新規加入数は少ない。
		マッコ	0	15%	白化率10%。指状ミドリイシ属の小型群体が散見できる。付着藻類が多いが、サンゴ群体は概ね健全な状態であった。
		石川	0	10%	白化率20%。ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がみられる。新規加入は少ない。
		親川	0	25%	白化率5%未満。指状および卓状ミドリイシ属の小型群体や、ハナヤサイサンゴがまばらに見られる程度。リュウキュウノウサンゴ群落が広がる。
		宮古崎	0	50%	白化率5%未満。一部のハナヤサイサンゴに白化がみられた。指状および卓状のミドリイシ属群体が多い。
		志戸勘コモリ	0	20%	白化率80%。樹枝状ミドリイシ属や樹枝状アナサンゴモドキ属の小群落が点在している。フエダミドリイシやMontipora mactanensisなど、周辺海域にあまりみられない種も生存する。
		志戸勘礁池	0	10%	白化率50%。樹枝状ミドリイシの小型群体も多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。ノウスエダミドリイシ等もみられる。
		国直北	0	80%	白化率60%。サンゴが回復しない状態が続いていたが、H25年度20%、H26年度50%、H27年度70%、今年度80%と増加した。
	国直	0	80%	白化率20%。サンゴが回復しない状態が続いていたが、H25年度20%、H26年度40%、H26年度50%、H27年度60%、H28年度70%、今年度80%と増加した。	
	毛陣礁池	0	40%	白化率20%。礁斜面より礁池内のサンゴの回復が広範囲に進んでいることから、調査地点を礁縁から礁池へ変更した。礁池内は、卓状ミドリイシ類が優占している。	
	親川南	0	80%	白化率40%。2010年、大規模な崩落があり、土砂の流出や海底への泥土の堆積がみられは約半数のサンゴ群体に白化や死滅がみられた。その後サンゴは回復が進んでいる。	
	宇検村	曾津高崎東	0	80%	ナヨウミドリイシやクシハダミドリイシなどの大型の卓状ミドリイシ群体が一面に広がっている。新規加入も多い。サンゴの白化の発生はなし。
		外浜	0	75%	礁縁では被度が高くなり、卓状ミドリイシ大型群体もみられる。白化やオニヒトデ食痕はなし。
		屋鈍崎	0	40%	白化率5%未満。ユビミドリイシやオヤユビミドリイシ等の群体やナヨウミドリイシやハナハチミドリイシ等の卓状群体が散見できる。
		屋鈍	0	20%	白化率30%。直径20～40cm程度の指状および卓状ミドリイシ群体や樹枝状ミドリイシ群体が散見できる。
		タエン崎	0	70%	白化率10%。大型卓状ミドリイシ属のサンゴ群体が散見できる。浅所では、樹枝状ミドリイシできる。
		タエン	0	60%	白化率30%。死亡率5%未満。死滅群体は少数であった。白化が長引いた場合は、脂肪群体が増加するおそれがある。
		枝手久島北	0	75%	ナヨウミドリイシ等の卓状ミドリイシ属が優占する。オニヒトデ食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。
		倉木崎	0	40%	コリボース状ミドリイシ小型群体が散見できる。ユビミドリイシやオヤユビミドリイシが多い。白化やオニヒトデ食痕はなし。新規加入は少ない。
		船越海岸	0	80%	ナヨウミドリイシ等の大型卓状ミドリイシ属が優占する。新規加入のサンゴも多い。オニヒトデ食痕や白化なし。良好な環境が保たれている。
	龍郷町	ウマズバマ	0	25%	食害等は見られない。ソフトコーラルが目立つがミドリイシが減少したようだ。
ハナゴイ		0	40%	食害なし。パラオハマサンゴ、ユビエダハマサンゴは相変わらず健在。ミドリイシは目立たない。	
円		0	10%	育っていた小さいサンゴが少し減少。全体的にはソフトコーラルが優勢。	
嘉渡		0	10%	10cm程度のサンゴが少なくなったように見える。	
久場		0	25%	水深3mのユビエダハマサンゴは変わらず死滅状態。水深5mからユビエダハマサンゴが少し目立つ。水深10mを越えるとエダセンベイサンゴ。少し泥を被っているのが気になる。	
今井崎		0	30%	ソフトコーラル、ハードコーラルともに変化無く元気。食害はなし。	
赤尾木		0	30%	砂地に点在するハマサンゴは昨年度と同じく元気に生息。ミドリイシ類が減少。目立った食害は見られない。	
倉崎		1	25%	夏の高水温でミドリイシが減少したように思われる。	
白浦		0	15%	ミドリイシが減少したようだ。コブハマサンゴは健在。	
戸口アーチ		0	25%	食害なし。ミドリイシが減少。イサンゴ、ハマサンゴ、ソフトコーラルが目立つ。	
戸口アウン	0	25%	イサンゴ、ハマサンゴ、ソフトコーラルが変わりなくみられる。食害なし。		

平成29年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
	戸口落水	0	25%	食害等なし。ミドリイシが減少。
瀬戸内町	安脚場	1	35%	継続的にオニヒトデ駆除を行っている海域で、前年度と比べ若干ではあるが被度が上昇した。
	黒崎	0	15%	前年度と同様に全体的な被度上昇にいたっていない。
	実久	0	75%	被度が高い海域で場所によっては、大小のテーブル珊瑚が群生している。
	デリキョンマ岬	0	35%	被度の変化はなく、白化現象も見られなかった。
喜界町	花良治	0	25%以上50%未満	オニヒトデによる食痕は見られない。サンゴや海藻等への油の漂着も見られず異常なし。
	塩道	0	25%以上50%未満	オニヒトデによる食痕は見られない。サンゴや海藻等への油の漂着も見られず異常なし。
	池治	0	5%以上25%未満	オニヒトデによる食痕は見られない。サンゴや海藻等への油の漂着も見られず異常なし。昨年9/4の豪雨で土砂流入が見られたが、堆積していた土砂は少なくなり、以前の状態に回復している。
徳之島町	畦	12	70%	オニヒトデが活動的で、食痕が多く見られた。サンゴの白化は見られなかった。シコロ系・枝サンゴ共に生育良好。活動が鈍くなっている。水温低下によるサンゴの白化がみられた。
	母間	14	65%	被害が少なく生育良好。水温の上昇による白化はなし。オニヒトデが活動的で食痕が目立った。オニヒトデの行動が鈍くなっている。食痕小さめ。
天城町	松原漁港沖	0	20～25%	新しい珊瑚礁が少しずつ勢力を出してきている。被害珊瑚の上には海藻がついている。松原漁港入り口付近、両岸に珊瑚群が発達しており昨年度より大分回復のきざしがあった。
	浅間沖	0	20～30%	この海域は珊瑚礁が分散されていて昨年同様最近の被害は全然なかった。徳之島空港、北側の浅瀬を中心に珊瑚礁の回復が進んでいる。
伊仙町	喜念	3	35%	オニヒトデのサイズは小型で、白化現象が少し見られた。
	佐弁	3	35%	白化現象・食痕もなくサンゴの状態は良好である。
	目手久	3	60%	オニヒトデのサイズは小型で、サンゴに若干白化現象が見られるが状態は良好である。
	面縄	2	35%	オニヒトデのサイズは小型で、白化現象が少し見られた。
和泊町	西原	0	20%	大きな変化なし。
	出花	0	20%	大きな変化なし。
	伊延	0	20%	大きな変化なし。
	イダシチ	0	20%	大きな変化なし。
知名町	沖泊(北西)	0	5%以上25%未満	昨年に引き続き高水温が続いているにもかかわらず成長が見られ、傷面も小さくなってきている。今のところ白化現象は少数にとどまっている。オニヒトデ1個体とレイシガイ30個体駆除。
	屋子母	0	5%以上25%未満	漁礁が設置されていてその先端に着床成長しているサンゴが多くなってきている。
	ウジジ浜沖	0	25%以上50%未満	今年の夏の異常な高水温によりほとんどのサンゴが白化している。
与論町	長崎沖	0	40%	良好
	赤崎沖	0	40%	良好
	赤崎沖(礁池内)	0	50%	良好
	皆田沖(礁池内)	0	10%未満	かなり不良
	茶花沖(ニュードロップ)	0	50%	良好
	茶花沖(宮殿東)	0	30%	やや良好